

＜ 運営推進会議における評価 ＞ ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人鳥伝白川会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護ゴン
所在地	(〒906-0006) 沖縄県宮古島市平良字西仲宗根 1496-7		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・主治医と看護小規模多機能居宅介護事業所(看多機ゴン)の密接な連携の下、医療行為も含めた多様なサービスを24時間365日利用することができる。*がん末期の看取り期・病状不安定期における在宅生活の継続支援、家族へのレスパイトケア、相談対応による不安の軽減、退院後の在宅療養生活へのスムーズな移行支援
- ・看護小規模多機能居宅介護事業所の介護支援専門員が「通い」「泊り」「訪問(看護・介護)」のサービスを一元的に管理するため、利用者や家族の状態に即応できるサービスを組み合わせることができる。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020年 12月 27日	従業者等自己評価 実施人数	(15)人	※管理者を含む
----------------	------------------	------------------	---------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021年 3月 27日	出席人数(合計)	書面にて意見集約
書類配布(内訳)	■市職員(1 人) ■地域包括支援センター職員(1 人) ■地域住民代表者(1 人) ■利用者家族(1 人) ■自治会長(1 人) ■地域老人クラブ代表者(1 人) ■知見を有する者(1人) ■居宅介護事業所職員(1人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	① 理念、目標を日々のケアに活かせるよう可視化する ②働きやすい職場づくりに向け、個々が役割を持って活動する	① ケースの振り返りやデスクカンファレンス時に理念や今年度の目標を配布。新人指導時、配布し説明。今年度の目標に関する個人目標を立案 ② 個人面談で、スタッフ個々の強みを活かした役割を担当し活動。個人目標は立案時、具体策まで落とし込み実践	理念を利用者との関わりの場面や日々の業務の中で、活かせるように取り組んだことで、職員一人一人が看護小規模多機能のあるべき姿を言語化し、同じ方向を向いて働くことにつながった 個人が目標と役割を持ち、業務にあたることで、計画的に活動し、キャリアアップのため学習している。モチベーションアップにつながっている	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	① 担当介護士が中心となり個別性のある具体的な介護計画を作成し実施する ②本人・家族の意向を取り入れた介護計画を作成する	① ケアミーティングや終礼などで、意見交換し作成。また、主任・副主任による個別指導も実施 ② ケアマネジャーとの情報共有。受け持ち介護士もサービス担当者会議に参加。本人、家族とのコミュニケーションを多く取るよう心がけ実践	サービス担当者会議に参加し個別性のある介護計画の作成につながった。本人家族の意向を取り入れるため、積極的にコミュニケーションをとるようになり、職員個々が主体性をもってケアすることにつながった
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	① 急性期病院の連携室との顔の見える関係性づくりを深めていく ②小規模多機能との交流や情報交換の場を持つ	① 新型コロナ感染流行により、情報交換ができる場を作れなかった ② 小規模連絡会参加。電話による情報交換	コロナ禍で行動にも制限があり、活動できなかった。次年度も形を変え、関係づくりを行っていく必要がある
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	① 自治会行事に参加し、地域住民の方々と交流する ② 事業所についての理解を深めてもら	① 自治会の環境整備(草刈り)に管理者が3回参加	近隣住民との交流の機会を持つことで、個別に介護相談、訪問診療に関する相談など受けることにつながった。また、懇

		<p>う活動をする</p> <p>③ 看護相談、介護相談など地域住民への奉仕活動を行う</p>	<p>② 懇親会に2回参加し、施設紹介、認知症と介護についての講話を実施</p>	<p>親会への参加により地域とのつながりができてきた。次年度に向け、さらに地域活動に参加し、誰でも安心して暮らせるまちづくりにむけ、当施設の役割を明確にしていきたい</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>① 個別性のある介護計画の作成と計画に沿ったケアを実施する</p> <p>② 今後どのように暮らしていきたいかを確認しながら意向に沿ったケアを実施する</p>	<p>① 受け持ち介護士の担当者会議への参加の徹底</p> <p>② 本人・利用者の意向を確認するため積極的にコミュニケーションをとり情報共有につなげた</p> <p>③ 関わりの振り返りをカンファレンスにて言語化し、次につなげる話し合いができた</p>	<p>その人が望む暮らしを最後まで支える専門職としての自覚と自信が個々に強くなってきたと評価する。今後はチームアプローチを強化し、職員の能力を底上げしていきたい</p>	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>事業所理念を利用者との関わりの場面や日々の業務の中で、活かせるよう言語化するよう取り組んだことで、職員一人一人が看護小規模多機能のあるべき姿を明確化することにつながった。</p> <p>個々が目標と役割を持ち、計画的に活動したり学習した。そのためモチベーションアップにつながった。</p>	<p>① 理念、目標を利用者家族と共有していく取り組みをする</p> <p>② ひと（利用者・家族・職員）を大切に環境づくり</p>
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>介護職員がサービス担当者会議に参加し個別性のある介護計画の作成につながった。本人家族の意向を取り入れるため、積極的にコミュニケーションをとるようになり、職員個々が主体性をもってケアすることにつながった。</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p> <p>コロナ禍で行動に制限があり、活動できなかった。次年度はこれまでの形を変えながら、より深い関係づくりを行っていく必要がある。</p> <p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)</p> <p>自治会行事への参加を重ねることで、個別に介護相談など受ける機会となった。また、懇親会への参加により顔の見える関係ができてきた。次年度はより関係性を深め誰でも安心して暮らせるまちづくりにむけ、当施設の役割を明確にしていきたい。</p>	<p>① 本人・家族の意向を取り入れた介護計画の作成、実施、評価をする</p> <p>② 安全なサービスを提供する</p> <p>③ 感染予防や健康管理を徹底する</p> <p>① 会議形式以外での柔軟な連携の形を構築していく</p> <p>① 地域住民の方々との交流場面で気軽に看護、介護相談ができる関係づくり</p> <p>② 事業所として地域への奉仕活動を実施</p>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<p>その人が望む暮らしを最後まで支える専門職としての自覚と自信が備わってきたと評価する。今後、チームアプローチを強化し、職員の能力を底上げしていきたい</p>	<p>① 個別性のある介護計画の作成と計画に沿ったケアを実施する</p> <p>② 今後どのように暮らしていきたいかを確認しながら意向に沿ったケアを実施する</p>

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		・職員一人一人が事業所の機能を理解し働いている					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・「目標管理・人材育成マニュアル」を作成した ・職員個々が年間目標を立案し、達成に向け活動している ・管理者とスタッフ間で、年3回の個人面談を実施している ・個人面談ではマニュアルの説明や資格取得、キャリアアップに向けた内容を話し合っている ・自己評価、他者評価により、目標の達成度を明確化している ・新入職者に対し個別育成計画を管理者、主任、副主任で作成し、指導教育している 					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」につい

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・インターネット配信研修を導入し、個人で受講できる環境を整えている ・集合研修を1回/月計画していたがコロナ禍の今年度は2回にとどまったり、他は個人視聴とした ・デスカンファレンスを中心に、利用者対応の振り返りを行い、意見交換や今後に向けた方向性を話し合う機会を持った ・施設外研修の案内を職員に情報提供した ・介護士の吸引等研修（1～3号）受講によるスキルアップを推奨し、受講できている					て、充足度を評価します
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・毎日朝・夕の申し送りで共有している ・1回/月全体会議、ケアミーティングを開催（コロナ禍で、ほとんどが紙面開催）している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・紙面での報告が多いため、意見交換の 機会は例年より少なかった					
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○				✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・対面での開催は1回のみとなり、他は紙面開催となった ・会議での意見をもらうことができず、こちらからの報告や情報提供が主となった ・委員宅に訪問した際、車の運転について近隣住民からのクレームの情報をうけ、スタッフ間で注意喚起できた ・管理者が地域の方々との交流の場に参加する機会を作ることができた					
③ 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に	○					✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	努めている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・就業規則が明示され、特別休暇など内容が整備され充実している ・定期的な健診を実施している ・職員のインフルエンザワクチンの無料接種を推奨している ・職員の希望に合わせた勤務、有給休暇取得ができています ・コロナ感染防止マニュアルを作成した ・体調不良時の休暇や勤務調整を積極的に行っている ・職員同士協力しあって働いている 					<p>ます</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○			<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>	
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や終礼、業務日報で情報共有している ・利用者のサービス開始前に、記録から情報を収集し、サービス終了後は実施内容を記載することを徹底している ・情報は申し送りノートに記載し、随時更新している 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<ul style="list-style-type: none"> ・就業時には職員個々が確認している ・グループラインを利用し翌日の予定や業務分担、連絡事項など共有している 					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの運営推進会議での報告ではよく改善され、対応されていると感じます 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対し契約書の中に事故に対する補償について明記している ・インシデント・アクシデントは書面におこし、報告内容を共有している ・職員間で対策を策定、実施し、対策が有効であったかを全体ミーティングで評価している ・交通事故発生時フローを作成し、活用している ・全車両へドライブレコーダーが設置されている ・定期的な車両点検を実施している ・交通安全講話を開催した ・夜間訪問時の防犯対策はできていない 					
② 災害等の緊急時の体制の構築							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまりで きていな い	全く できてい ない		
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
<p>II サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</p> <p>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</p> <p>① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施</p>							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視し

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・散歩・リハビリの継続などできることに着目し、利用者や家族の意向を確認しながら個別ケア計画を策定している					た計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○				✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		・病状の変化やケアの変更があった場合 の対応は早いですが計画書への反映が遅れが ちになることが多い					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度 に偏らないよう、適時適切 に利用者宅を訪問すること で、家族等を含めた居宅で の生活状況の変化を継続的 に把握している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「訪問による、家族等を含めた居 宅での生活状況の変化の継続的 な把握」という視点から、充足度 を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等 を含めた居宅での生活状況を把 握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標 の達成状況等について、主 治医など、事業所内外を含 む関係多職種と情報が共有 されている	○				<ul style="list-style-type: none"> ・他職種、他機関で情報共有 しケアや状況に応じた対応 が取れていることは非常に 良かったと思います。(例え ば新型コロナに対する対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の 達成状況等の事業所内外を含む 関係多職種との情報共有」につい て、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
						<ul style="list-style-type: none"> ・主治医、看護師、介護士、リハビリ等と情報共有が図れている ・担当者会議に参加し、情報を共有している 	
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職が身体の変化に気づき、看護職がアセスメントし、対処し協働できている ・介護職が実施できる医療的ケアに対し看護師の指示のもと実施している <p>・医療的ケアは基本的に医療従事者だと思いますが柔軟な部分での役割分担は明記されていますかと質問 →解剖・生理の説明を含め、手順や観察点、注意点をケースにあわせ看護師がまとめ、掲示している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○			<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況変化時に話し合いケアの方法や対策が取れている ・ミーティングや申し送りで共有してい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		る					
④ 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・資料や申し送りノートなどで情報提供している ・褥瘡予防や転倒予防、体調管理、服薬管理など状況に合わせて提案し、医療処置の方法やケアにおける注意点など指導している ・利用開始前に疾病や医療処置について説明する時間が持てないことが多い 					
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス内容についてはその都度説明し理解を得ている ・利用開始時は利用者、家族とサービス 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		を組み立てる段階で細かく説明している					
③ 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・計画内容を利用者等に合わせ、具体的な説明をしてから実施している ・理解度の低い利用者に対し、キーパーソンを中心に説明をしている場合があり、利用者への説明もしっかり行う必要がある					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・カテーテルの取り扱いやインシュリンの単位など変更時にその都度説明している ・パンフレットや作成したリーフレットを活用し、説明・配布している ・複雑な処置などは訪問し家族と共に実施するように計画している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
④ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	○					✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族の意向を確認し対応している ・変化に合わせて柔軟にサービスを行っている ・本人が望むであろう選択を家族から聞き取り、職員も一緒に考えながら、サービスの提供に反映している					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができる		○				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・管理者・ケアマネが予後やリスクについてなど家族の希望を確認しながら、調整している ・事業所内でも家族の選択により考えられるリスクや対応の仕方などカンファレンスを行いスタッフ間で共有している					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向		○			・事業所の特徴としては「おおよそできている」から「よくできている」の評価になるよう取り組んで欲しい —今後も、前向きに取り組ん	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくでき
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・説明内容や家族の言葉など記録している					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	等を記録として残している					でいきます	ている」
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生す

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		状況を報告し緊急時の対応や方針の相談ができている ・状況にあわせ往診対応ができている ・緊急時の対応については共有しているが、長期に利用している方に対する方針の変更の有無や相談、共有ができていない場合もある					前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○					✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・往診対応、救急搬送ともに看護師を介し、体制づくりができている					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考え		○				✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォ

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	られる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・定期的会議を持ち、取組みを報告している。しかし、今年度はコロナ禍で意見交換の場が少なく紙面会議の形となっている					一マルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です ✓
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見るような方法での情報発信が、迅速に行われている			○		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・活動計画や、報告は運営推進委員へ発信している ・ホームページを活用した情報の発信を検討していきたい	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について		○			✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	て、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ゴン便りを定期的に発行し、利用者や運営推進委員に配布している ・自治会行事に参加し、地域の方々の介護相談を受ける機会ができた ・地域住民の親睦会に参加し、施設の紹介をしたり、認知症についての話をする機会をつくった					✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		○			<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・依頼があれば積極的に受け入れを行っている	✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする	○				✓ 「積極的な受け入れ」について、	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
	要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている						<p>充足度を評価してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整え

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
		な取り組みは行えていない					ていくなどの役割も期待されま す ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利 用者ごとの計画目標が達成 されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成され ている ②. 利用者の2/3くらいについて、達成さ れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成さ れている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・各利用者にあったケアを計画的に取り 入れ実施している ・目標を評価し次の目標につなげている		✓ 「計画目標の達成」について、評価 します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・365日24時間対応できることで安心につながっている ・状況に応じ多職種と連携をとり対応できている ・家族からの相談等には随時対応していることで、「いつでも相談できるから安心」との言葉を聴くことがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとっては心強い ・療養生活が安心して送れていることは素晴らしいと思います 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話の中では「よかった」「ありがとう」等言葉をももらった 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅での看取りはいつでも、どの時間帯でも対応してくれるため安心感が大きい 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		<ul style="list-style-type: none"> ・看護師と介護士が連携しケアに関わっている ・24時間対応で、連携がスムーズに行えている ・訪問、通いを柔軟に調整し、対応することが利用者、家族の不安の軽減につながっている ・法人全体で支える体制を整備している 		